

# 大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 18 年 (2006)

平成 18 年 春の大祭号 (75 号)

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

## 主な目次

この国を愛する心……………	2 頁
春の大祭案内……………	3 頁
杜の話題……………	4 頁
今後の行事……………	6 頁
初宮詣芳名……………	9 頁



# この国を愛する心

宮司 鎌田紀彦

今年は一月の寒さが強かったせい、三月も半ばになつて境内の大宮桜（冬桜）が例年になく美しく満開に咲き競つていました。

宮幼稚園の第五十六回目の卒園式が行われ、例によって御神前での奉告祭のあと、一〇三名（男児五二名・女児五一名）の卒園児一人一人に保育証書及び神社本庁統理様のお祝いのことば、そうして裏千家家元様のおしるしを手交させて頂きました。

卒園児たちはお母様と一緒に登壇して、私の眼をしっかりとみながら大きな声で「ありがとうございます」ときちんと挨拶して証書を受取つておりました。この証書授与だけでも一時間半ほど係りましたが、国歌、園歌の斉唱に始まり長時間に亘る式典の次第が終るまで、騒ぐことなくきちんと行儀よく素晴らしい式の進行でございました。

子育八幡の大神様のご加護のもとに、見違える様に大きく立派に成長したその姿は、将に神の子そのもので、素直で強くやさしく逞しく感じられ、一人一人がとでも光り輝いておりました。きつとご神前で舞った朝日子の舞、運動会でのクラス対抗リレー走やお遊戯会など沢山の思い出とともに、チームワークのパワーを自然に学んだ幼稚園は「心のふるさと」であり、いつまでも心に残ることでしょう。

幼児期の大切な人格形成のベースづくりのお手伝いをして頂いた事に感謝し、これから小学生中学生へと進むに従い、立派に成長し大成して呉れるであろうことを信じております。

このところ少子化とともに子育て支援が進み、国では幼保二元化政策として「こども園」がつけられる様であります。この反面、謂ゆる「キレる」子供達の脳科学



の観点からの研究がなされ、その成果が発表されました。それによりまた従来の伝統的な子育ての正しさが証明され、見直されて来ております。「子供

は三歳くらいまでは家庭で母親をはじめとする家族からの愛情を受け、安定した情緒を育て、その上に発展させていくことが望ましい」とされ、更に学者によつては、「少なくとも生後八歳くらいまでは母親は家に居ること、そうして適切で豊かな愛情を注ぎ続けてほしい」とまで述べています。

これからも日本の将来を託す掛け替えのないお子様達をお預りするに当たり、「ご父母（ご家庭）の皆様と車の両輪の様にタイアップしながら大宮幼稚園の伝統のある保育事業に万全を期すべく暫いも新たにしている昨今でございます。

今年の年明けは耐震強度の偽装問題、偽計取引のライブドアショック、東横インの不正改造事件、官製談合等いまわしい不祥事が全く、当り前の如く続出致しました。これが戦後六十年を経た日本国の姿なのかと驚かされた、日本の将来に不安を抱いたのは私のみでなく、多くの方々が危惧の念を抱かれたことと思います。

六十年前の米占領軍による日本人の精神を骨抜きにしようとする「日本弱体化政策」（特に学校教育より地理・歴史・道徳（修身）の三教科の抹殺や神道指令等）が執られました。日本は独立した後も改めなれない日本の姿の結果、その効果が今現われつつあり、情けない日本の姿なのです。このところ、先祖から受け継いで来た歴史や文化伝統、倫理感の断絶が著しく現われております。

かつて高潔で勤勉で正直な国民性を持ち、神を敬い祖先を崇めて毅然とした精神の支柱を持ち高い倫理感を持ち合わせていた誇り高い民族性とは、世界各国よりも羨望の眼差しで見られ、尊敬されていた苦でありました。

又かつての日本人は性善説に裏付けされ、生かされていきましたので、子供の頃から「お天とうさま」目に見えぬ「神さま」「先祖さま」がいつもみているから「嘘をつくな」「恥しい、みつともないことはするな」「人を裏切るな」とたえず親から教えられていました。ですから社会生活を営む上で、悪いことをしてはいけないのだと思うのは当然であり、公共心や連帯感も培われ、又ものづくりの職人達も品質の良いものを造り、後世に残るものをと心掛けているのでした。

さて今はどうでしょう。自己中心の自分さえええれば、金儲けの為には、まして見つけなければ何でも有りの、価値判断の多様化では済まされない非倫理的な事態が横行しているのです。

しかしながら過去の多くの事象からしても絶対に悪事は永続きしないことを知るべきなのです。常に神々はご覧になっているのです。又神佛を信じている人と信じない人の差が大きく開いて来ています。心の構造改革でもある敬神崇祖の念に裏付けされた倫

理道徳感を再認識して確立し普及させる事こそ今すぐ行うべき時季が来ています。

暗いニュースの続く中で今度のトリノ五輪での荒川静香選手の快挙と云い、日本中を釘づけにして湧かせたワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で初めて世界一の王座に輝いた王ジャパンの日本チームの活躍振り（その言動と試合運び）は素晴らしい感動的でありました。

「野球人生の中で最高の日」「野球をやっている、こんなにチームメイトと同じ気持ちで、同じ目的に向つて一つになったことはない。こんな経験をさせてもらって感謝している」と話していたヒューストンの選手等も、応援をした見る側にとつても、野球を通じて日の丸と国の威信を掛けてチームワークよろしく一丸となつて戦うことの大切な意義が示されました。そうして日本国中の国民も心からなる声援を送り、さわやかなその優勝に誇りと感動を覚える出来事でありました。この様な自然に湧き起るチームワークの精神や声援にこそ、国を愛する心根の発露が有るのです。

これらの事を国を大切にすることを心というだけでは到底表現することは出来ないのです。又国家主義全体主義にながらういけないと云いますが、このチームワークこそ素直な全体主義そのものであり、自己中心の好き勝手な個人主義の発想では全体的なもの、見方は到底出来ないと思います。

又近隣諸国と仲良くつき合うにも、日本の国家、民族の歴史、文化伝統をしっかりと教わり、日本の国柄に誇りと自信を持つことが大切なのです。そうして各々の自国を愛するもの同志がお互いに腹を割り肝胆相照らす仲間になつていくところに真の国際貢献や本来の国際親善友好の実が挙げられるものと思えます。

諸悪の根源と云われる教育基本法の改正が叫ばれて久しく停滞しております。早く教育基本法が改正されて、新一年生に進む我が幼稚園の卒園児たちが、日本に生まれたことを誇りに思える国民に成長して欲しいと願つてやみません。

その上何よりも秋篠宮妃殿下ご懐妊のお芽出たい明るいニュースは、お蔭様で神風が吹いたが如く、皇室典範の改悪も沙汰止みとなり有難い事でございます。健やかなる御子様のご誕生を心よりお祈りするばかりでございます。

今年も春の大祭が近づいて参りました。期間中多くのご参詣の方々をお迎えして、盛大にして厳肅な祭典行事のご奉仕が出来ますよう祈念致しております。

若葉青葉の季節に  
**春の大祭**  
 裏千家流の式奉納の献茶式や  
 観世流の大宮八幡宮の杜新能

今年も風薫る若葉青葉の季節がやってまいりましたが、当宮では五月一日より五日の間、春の大祭(つじ祭)を斎行します。期間中は五日の春の大祭当日祭(尚武祭)を中心に二日午後には植樹祭、三日には子供の祭・稚児行列、四日には第二日ノ儀・挙式者の集い、四月二十九日には弓道奉納射会が催されます。また参道には植木市や露店も出て、境内は参拝の方々と賑わいます。そして五月八日には裏千家献茶式、二十一日には大宮八幡宮の杜新能が奉納されます。

**春の大祭(つじ祭り)**  
**祭典と奉納神賑行事**

朔日祭並びに躑躅宵大祭	5月1日
植樹祭(苗木先着(一〇〇名に授与)	5月2日
子供の祭(稚児健康祈願祭)	5月3日
第二日ノ儀	5月4日
春の大祭当日祭(尚武祭)	5月5日
春の大祭終了奉告祭	5月5日

**神賑行事**

弓道奉納射会	4月29日
古武道奉納演武	5月3日
稚児行列	5月3日
民話語り「ちんじゆの森物語」	5月3日
第六回挙式者の集い	5月4日
若葉in大宮コンサート	5月4日
杉並太鼓演奏	5月4日
野点(裏千家)	5月5日
和太鼓クラブ「でんでん虫」演奏	5月5日
方南エイサー踊り	5月5日
雅太鼓演奏	5月5日
献燈	4月29日～5月21日
みどりの会即売	4月29日～5月5日
スカウトバザー	5月3日
植木市	5月3日～5月5日
盆栽展示会・即売会	5月3日～5月5日
露店	5月3日～5月5日

**植樹祭**

第七回裏千家献茶式	5月8日
第三回大宮八幡宮の杜新能	5月21日



当宮みどりの会主催で、植樹祭を五月一二二時より神門内で斎行します。続いて参列者に緑化推進の一助として苗木(二〇〇鉢)を授与します。

**第二日ノ儀・第六回挙式者の集い**

春の大祭第二日ノ儀が五月四日



第七回茶道裏千家献茶式が五月八日午前十時より斎行されます。本献茶式は裏千家鵬雲斎千玄室大宗匠(前家元)のご奉仕で執行。境内では裏千家淡交会東京第七西支部の奉賛添茶会が催され、また幼稚園茶席も設けられます。

**裏千家献茶式**



午前十時より斎行されます。第二日ノ儀には当宮で結婚式を挙げられたカップルの皆さん等が参列、祭典後は清涼殿にて第六回「挙式者の集い」が催されます。集いに先立ち奉納演奏会「若葉in大宮」も開かれ、当日ご参拝の皆様もご自由に陪観いただけます。

**大宮八幡宮の杜新能**

第三回「大宮八幡宮の杜新能」が来たる五月二十一日(日)の夕刻、奉納公演されます。この催しはNPO法人杉並で能楽を楽しむ会主催、当宮の共催、杉並区文化・交流協会の後援で開催されるもので毎年元旦に神能「翁」を奉納されている能楽師野村四郎氏等観世流の演者により執り行われます。演目は舞囃子「忠度」、狂言「附子」、能「葬上」の予定です。入場には陪観券が必要となります。

**春の大祭後の主な行事**

御嶽様名神社例祭	5月16日
さつき展示会	5月25日～6月4日
大祓(夏越祓)	6月30日
七夕・乞巧奠飾り	7月1日～7月17日
納涼大宮天神祭 書画行燈掲出	7月25日
多摩清水社例祭(水神祭)	8月1日
第二十三回戦歿者慰霊祭	8月15日
朔日祭	毎月1日
月次祭	毎月15日

お朔日参りを致しましょう

# 杜の話題

## 十八年新春のご社頭

平成十八丙戌歳。数十年に一度という大寒波の中の年明け。元旦午前零時、凜冽の気のなか宮司の打つ一番太鼓が境内に轟き開門。能楽師野村四郎氏により神能「翁」が神前に演ぜられ、ついで新春開運厄除大祈禱祭（一番祈禱）を奉仕。祈願の方々には宮司が授与されました。



午前三時、宮司により多摩清水社の若水が汲まれ、大前にお供えされ、午前八時より歳旦祭。皇室国家の隆昌と国民の安泰が祈られ、また午前には庭野日鏡会長様始め立正佼成会幹部の皆様が参拝されました。



庭野会長らご参拝

三日は宮司以下祭員奉仕により皇位の大元の始めを寿ぐ元始祭が斎行され、今年も三ケ日で十万人余の参拝者が詣でられました。

様が参拝されるなど多くの初詣での方々に賑わいました。二日午前十時、宗家小笠原清忠氏ら小笠原流一門により天下の邪悪を祓う臺目の儀・大的式が、

## 武蔵野陵遙拝

一月七日、先帝崩御のこの日、当宮では午前八時より境内齋場にて宮司以下祭員奉仕により武蔵野陵遙拝を斎行。昭和天皇の御遺徳をお偲び申し上げました

## TBSラジオ 年越しの生放送を中継

いよいよ十八年が明けようとする大晦日午後十時過ぎ、中山秀

## 週刊新潮 成年の神社巡りで当宮を紹介

週刊新潮一月五・十二日新年特大号のグラビア「成年の神社巡り」に当宮が紹介されました。「きたる年の干支は戌。人間にもつとも近いこの動物にゆかりの深い神社を訪ねてみた」との企画で六ページにわたり特集。当宮の御祭神の応神天皇が戌の日のお生まれであ



ることから、当宮にも取材に來られ、「大鳥居、一の鳥居をくぐり、広大な境内へ。安産、子育ての八幡さまとして知られ、近頃はペットとの絆を深めるお守りも人気」と、大鳥居の表参道入口付近の写真とともに掲載されました。この記事が反響を呼んでか、安産祈願はもとより、殊の外、当宮の「ペット絆(きずな)御守」の授与願いが全国より相次ぎ、ご祈願の上、各地へ発送しております。

## 立正佼成会杉並教会 和田第一支部でご参拝

現場レポートでおなじみの東海林のり子さん、十七年のキーワード「少子化」に因んだ現場ということで、子育てや安産、縁結びにご利益のある当宮の歳末風景を取材しました。



立正佼成会杉並教会和田第一支部では毎年年頭に当宮参拝を行っておりますが、今年も二月十二日午前、中川典子支部長以下八十五名の会員の皆様ご参拝され、身体健勝・家内安全を祈願。清涼殿で新春の集いが催され、宮司が挨拶を致しました。

### 古式により火鑽具で どんど焼き齋行

小正月神事の古札焼納祭（どんど焼き）が去る一月十五日午前、当宮境内で齋行されました。午前十時、社殿にて月次祭並古札焼納奉告祭を奉仕、ついで神門内齋場で焼納祭を齋行。古式に則り、火鑽臼、火鑽杵で起こされた忌火が古神符守札や古神矢、正月飾りに点火され午後三時までお焚き上げが続ぎ、参拝者等は浄火を受け、今年一年

### 節分祭と豆撒き

当宮恒例の節分祭が二月三日齋行され、追儼の儀や豆撒き神事が執り行われました。節分は立春の前日、まさに冬から春に季節を分



豆撒き神事



和田帝釈天にて



の無病息災を祈っておられました。

ける日。この日午前十時より宮司以下祭員により節分祭を奉仕、魔除けの桃の弓、葦の矢で天・地・人を射る追儼の儀が行われました。ついで社殿前広場にて豆撒き神事、手作りの鬼のお面の大宮幼稚園児たちや参拝者等に豆がまかれ、除災福豆が授与されました。

また、杉並区和田の和田帝釈天でも三日午後四時より節分会が行われ、当宮よりも鎌田宮司が参列、石原伸晃前国土交通大臣らとともに豆撒きを奉仕しました。

### 文化財防火デー消防訓練

恒例の当宮自衛消防訓練が文化財防火デーの一月二十六日実施され、放水訓練などが本番さながらに行われました。

文化財防火デーは今から五十七年前の昭和二十四年のこの日、奈良・法隆寺金堂から出火、国宝の十二面壁画を焼失したことから制定されたもの。

当宮では社殿より出火との想定でまづ通報連絡、避難誘導、初期消火の訓練。消防隊到着後は杉並消防署、杉並消防団、当宮自衛消



防隊による一斉放水を実施。訓練には地元大宮町会の皆さんも参加され、防火意識を高めておられました。

### 多武峰・女人高野へ 伊勢初詣旅行

恒例の伊勢神宮初詣旅行が一月二十二〜二十四日に実施され、氏子崇敬者の皆さん三十四名が参加しました。



今年初の伊勢旅行は山の辺の道・多武峰・女人高野と伊勢をめぐるもの。第一日目は空路伊丹から奈良路に入り、まづ石上神宮と藤原鎌足公を祀る多武峰の談山神社を参拝、女人高野の室生寺拝観のあと伊賀の赤目

### 篤志家が五葉松奉納

温泉に宿泊。一日目は伊勢神宮内外両宮を参拝、最終日は猿田彦大神の本宮、椿大神社に詣り、無事帰着しました。



このほど氏子の篤志家より松の木が奉納があり、境内に植樹されました。奉納者は大宮二丁目に住まいの会社社長 長久保田顕三さんで、丹精込めて育てられた五葉松を奉納、去る三月二十五日に神門内神楽殿脇の境内に植樹されました。

### 皇紀二六六六年 紀元祭を齋行

二月十一日建国記念の日、全国津々浦々で奉祝の諸行事が催されましたが、当宮では午前十時より紀元祭を齋行致しました。

紀元祭は当宮役員総代や山田宏杉並区長等が参列のもと宮司以下祭員奉仕により齋行、国歌斉唱のあと宮司が祝詞を奏上、大和橿原宮の神武天皇即位より二六六六年に亘り連綿と万世一系の天皇によつてしるしめされる我が国柄に思いを致し、国運の隆昌をご祈念申し上げます。

ついで神門前参道広場を齋場に橿原神宮を遥拝し、参列者全員で「紀元節の歌」を奉唱、神武肇国をお祝い申し上げます。



### 大宮稲荷の初午大祭

二月十日は今年の初午。和銅四年（七二二）の二月の初めの午の日に

稲荷大神が京都・伏見の三ヶ峰山上に降臨された日で、当宮でも境内大宮稲荷神社や兼務各社でこの日を中心し初午祭が齋行されました。

大宮稲荷神社の初午祭は百数十本の奉納幟の朱が映える中、十日午後一時より宮司以下祭員奉仕により齋行。氏子崇敬者各位のご家業の繁栄を祈願致しました。

この日午前には堀内熊野神社の初午祭を奉仕。また境外社の谷中稲荷神社は二月十二日午後、稲荷講員等の参列のもと宮司奉仕により齋行。直会では油揚げや鯛を七輪で焼き、交流を深めています。また成宗白山神社は同十二日、尾崎熊野神社は五日に初午祭が奉仕されました。尚、当稲荷社には姉妹神社の竹駒神社も祀られていますが、竹駒神社の初午大祭は旧暦三月十日の例祭には、当宮より宮司、田木・瀬沼両役員も出向参列致しました。



### 皇室典範改正 慎重を求める要望署名実施

首相の私的諮問機関である「皇

室典範に関する有識者会議」が皇位継承について「女系天皇容認・長子優先」との報告を出し、政府がこれを踏まえた皇室典範改正を計ろうとしている事に對し、日本の国柄を破壊する暴挙との批判が相次いでいますが、当宮では「二二五代にわたる皇室の歴史と伝統を尊重すべき」との要望署名活動を実施しました。



この活動は東京都神道青年会が中心となって実施されていたもので、去る三月七日、当宮鎌田宮司の仲介で都神青役員らが、石原伸晃自民党東京都連会長と面談、当宮を含め八千四百八十名の署名を手交しました。

### 皇室の伝統守る一万人大会

皇室の伝統を守る一万人大会が去る三月七日、日本武道館で開催され、当宮よりも鎌田宮司、高橋役員ほかに参加しました。

一万人大会は、拙速な女系天皇導入は二千年以上続いた皇室伝統の破壊。今こそ万世一系の意義を知るべきと、各界各層の賛同を得て催されたもの。大会では主催



者を代表して三好達元最高裁長官が挨拶、ジャーナリストの櫻井よしこさんやヘブライ大学のベン・アミ・シロニー教授等が各界からの提言や意見表明を行い、本大会を「皇室の伝統を守る国民の会」の設立大会とし、皇室制度の諸問題の抜本的解決のため国会議員の会の設立を要望するなど、の大会決議案を満場一致で採択しました。

### 桜まつり

恒例の桜まつりが花の開花に併せ、三月二十五日から四月十日の土、日曜日に開催されました。

さくらをライトアップし、赤門前の八重紅枝垂の側にも篝火が焚かれ、夜間参拝が催され、お休み処やお茶屋も設けられてお花見の人々で賑わいました。



# 大宮の杜 春から夏へ

## さつき展示会の開催

第二十六回杉並大宮さつき展示会が、来たる五月二十五日より六月四日までの間、当宮境内で開催されます。さつき展示会は杉並大宮さつきの会主催、杉並区の後援で毎年催されているもの。氏子崇敬者の会員より例年約百鉢のさつきが出品されます。この展示会は特に賞を設けず、初心者でも参加出来ます。入会希望者は社務所までお問い合わせ下さい。また期間中の日曜日にはさつき作りの相談会も実施されます。



## 夏越しの大祓

恒例の夏越しの大祓が六月三日午後四時より神門前参道広場にて斎行されます。大祓は六月と十二月の年二回行われ、人々が日々知らずにおかしている罪や穢を祓う神事。特に夏越しの大祓は「水無月の夏越しの祓する人はちとせの命のぶといふなり」とうたわれまします。どなたでもご自由に参列が出来る、ご参列の方には「玉串だんご」と福笹が授与されます。

## 第六回納涼大宮天神まつり 書画「行燈」募集



大宮八幡宮夏の風物詩、「納涼大宮天神まつり」が今年も七月二十五日斎行され、奉納演奏や花火大会、凡そ二〇〇基の奉納書画行燈の掲出などが行われます。まず境内大宮天満宮にて午後六時より天神祭を斎行、ついで七時より社殿前にて「時間をはずした日の祭事」として奉納演奏を実施

施、この後子供自由参加の「ミニ花火大会」も予定しております。また恒例の書画行燈募集を左記の通り実施致しますのでご応募下さい。

### 記

- 水彩画、習字等を指定の用紙を使用して下さい。
- 用紙は六月より無料でお配りします。
- 用紙は横長でご使用下さい。
- 作品には必ず氏名を書き入れて下さい。また申込用紙に住所氏名をご記入下さい。締切りは七月十日です。

## 第八回乞巧奠飾りを再現

平安の七夕飾り、乞巧奠が、今年も七月一日より十七日までの間、清涼殿ロビーで再現公開されます。乞巧奠は中国の魔除けの風習や牽牛織姫の伝説と川のほとりで神衣を織る我が国の棚機女（たなばたつめ）の伝説とが一体となり宮中を中心に平安時代から行われた行事。学業技芸の上達を祈り筆硯や雅楽器、針糸などがお供えされ、平安の雅びが再現されます。また期間中の二日と九日の夕刻には清涼殿にて雅楽の奉奏も執り行われます。



## 多摩清水社例祭

水の日の八月一日、境内社・多摩清水社の例祭が朔日祭に引き続き斎行されます。



御神水の湧く多摩清水社は「広き野に靈（たま）の清水のあるところ」（青畝）とも詠まれております。水の大切な盛夏の時期、水神様の御神徳を称え、生命の源である水の恵みに感謝の誠を捧げるお祭りです。ご自由にご参列下さい。

## 菊作り講習会の開催

杉並大宮菊の会主催による菊作り講習会が今年も左記により当宮境内で開催されます。参加費無料ですのでご自由にご参加下さい。初心者大歓迎。



記  
5月28日  
6月18日  
7月9日  
10月1日  
の各日曜日の午後一時より開催します。  
(雨天開催)



### 母と子の集い

今年も明治神宮会館において、東京都神社保育連合会主催、東京都神社庁後援による第四十二回「楽しい母と子の集い」が一月十七日、十八日の二日間開催され、当連合会加盟の幼稚園・保育園二十八園中、十八園の親子総勢約三千八百人が両日にわたって参加しました。

はじめに国歌「君が代」の斉唱、次に主催者代表の挨拶、そしてご来賓の方のお祝いのことはをいただき、園児代表女兒による浦安の舞を見て、いよいよ劇団飛行船のマスクブレイミュージカル「白雪姫と七人のこびと」の人形劇を観覧しました。当園は初日の午前部に年長児とその保護者が参加して劇を堪能しました。終了後はここ数年恒例となっており、明治神宮正式参拝を親子でさせていただきます。大きな太鼓の合図で園長先生と父母の会長さん親子が代表で玉串奉奠をいたしました。厳肅な面持ちで共に外拝殿で拝礼をして、皆清々しい気持ちになりました。参拝の記念品をいただいたのち、戸澤権司様より明治神宮の成り立ちやお祀りしてある御祭神のお話を伺ったあとお礼をのべてそれぞれ家路につきました。

教頭 草村 敏子



### 平成十八年大宮八幡祭り (秋の大祭 日程のお知らせ)

本年の大宮八幡祭り(秋の大祭)は左記の日程により斎行されます。(平成十五年より敬老の日が、九月第三日曜日に改正された事に伴い、当宮の祭典・行事はその前の土曜・日曜を中心に斎行する)

- \*例大祭は従前通り九月十五日(金)に斎行する。
- \*神輿神霊入、末社若宮八幡神社・白幡宮例祭は九月十四日(木)に斎行する。
- \*宵宮祭は九月十六日(土)に斎行する。
- \*氏子奉幣祭(奉祝当日祭)、神輿合同宮入りは九月十七日(日)に斎行する。
- \*神輿神霊還しは九月十八日(祝)に斎行する。

### 第六回十五夜の神遊び

『月の音コンサート』『月見の宴』  
十月七日(土) 午後六時より

お詫び  
先号の社報第七四号謹賀新年挨拶中、和田東地区総代・玉村恭男様のお名前を一男様と誤記、また退任された池田鍵一様・小越藤広様のお名前をお掛け致しました。多大なご迷惑をお掛け申上げましたことを謹んでお詫び申し上げます。



近年、当宮ではフランス、カナダなど外国人の方の結婚式が行われるようになってまいりましたが、一昨年十一月に挙式されたイギリスと日本のカップルにお子様を誕生、一年後の同じ日、初宮参りをされました。このカップルは英国バークシャー出身のジェームス・ナッシュ様と市川織恵様。お二人は一昨年の十一月

日本の神前結婚式をヨーロッパの人々に知って貰おう——そんな企画から当宮挙式の模様は、去る三月二十日撮影されました。これはフランスの著名アーティストであるフロラン・パニの最新ミュージッククリップの製作ため行われたもの。『純粋で美しい愛』とのテーマでインド、アラブ、日本、フランスの四つの異なる結婚式を撮影。わが国では当宮が選ばれ、日本の伝統文化紹介のため日仏スタッフが再現された式の模様をドキュメンタリータッチで撮影しました。



撮影。わが国では当宮が選ばれ、日本の伝統文化紹介のため日仏スタッフが再現された式の模様をドキュメンタリータッチで撮影しました。

緑豊かな都心の社。  
正統派神前式

初詣 宮詣 宴集 会

衣装・美容着付・写真・饗膳(ご会食)など承ります。

清涼殿 03 (3312) 7515

結婚式挙式者芳名 (敬称略)  
(平成十七年十二月五日)  
平成十八年三月三十一日

犬塚 悟司・里子 村田 浩之・若葉  
奈良 龍馬 玲香

二十七日、当宮のご神前にて挙式、昨年十月にはご長女のナッシュ・スーザン・海愛(かいら)ちゃんのご誕生、ちょうど一年後の十一月二十七日、ご一家お揃いで初宮詣でをされ、清涼殿にて饗膳を受けれられ、楽しい一時を過ごされたご様子でした。



初宮詣り芳名

(平成17年11月1日~平成18年3月31日)

お健やかな成長をお祈りいたします

- 市原杏珠 平山愛波 岡田悠香 樋口天斗
石山亮太 杉江夏彦 木矢彩花 和氣友瑠果
岸陽斗 田口采衣花 小島和也 佐藤伶
市原結太 兒嶋凛 松本泰治 高橋幸之介
安江紅葉 押尾直彦 樋田眺朗 田中悠生
沼尻久留実 藤岡幸 福田宇弥 富田晃丞
小林陽彩 鈴木拓翔 川原海風 浅川凌雅
金野紗綾 石渡健介 渡邊諒也 吉井ひかり
久保智美 内藤悠河 佐野輝太郎 有田泰雅
高見拡和 清水香恋 山岡瑞季 西輝
箱崎美七海 渡辺時生 小野紅愛 坂本凱
廣瀬瑞奈 松本七愛 平出望夏 菅原晴瑠
奥田花乃 木場和奏 寺田舞 今井莉乃
花谷昂 池亀光司 一ノ宮祥真 鈴木陽斗
秋山央 秋元華奈 鈴木絵理奈 伊澤雄太
丸山亮 山上沙羅 坂井飛友 牛木叶望
田村雄太 奥村杏奈 重本果南 多田茉花
中村崇秀 寺嶋愛里沙 石原菜夏 松下慎吾
平澤千尋 大橋美海 千葉夏実 岸田陵汰
村田敬知 池田尊哉 熊谷慶丸 小野原美波
堀内大瑞 大城利仁 今村翔奈 竹下望実
河内宏輔 吉岡里沙 中村一稀 高橋悠良
栗崎ゆら 吉見有愛 本間杏紗 志垣陽太
吉田涼太郎 田口裕規 有井瑞智 平川奈央
関彰斗 大木愛葉 馬込希歩 諸澤七恵
富川凌 安藤光佑 村上迪穂 國安登利子
武田愛璃 前田咲治 山崎奈々実 林泰瑠
渡部遙太 前田唯香 宮村あかり 菊地航太
井上優香 望月香那 望月あかり 菊地亮介
遠藤愛子 早乙女進歩郎 花澤百々 刈込大聖
榎本美奈 長谷川雄大 植田賢太 野田和矢
佐藤花穂里 鈴木美咲 田中勇宇 藤森宏介
山岸完 鈴木利緒 貞森聡太 石塚理奈
川合琉斗 奥野みのり 牟田純 船山莉紗
原乃々未 佐藤由菜 斎藤世太郎 永嶋結衣
長尾和香 大木怜奈 武井幸也 鴻上拓海
菊池咲希 西村優利 尾崎敬人 井上雄仁
南雲琉希 松岡晋歩 堀口煌太 二瓶光希
藤井徹太 榎戸椰 前川皓亮 杉山果音
五十嵐千尋 池田凌 長沖まゆ 前岡朋葉
池田悠真 木村咲花 吉田愛 牛嶋浩太郎
浅田大貴 安斎敏基 山岡杏菜 牛嶋さやか
杉浦陸太 家高京平 小島美羽 國藤憲信
嶺岸茉穂 藤原奈音 古谷野響介 吉田月奈
嶺岸茉奈 丸石瑛大 松本龍星 中村東月
黒岩真永 渡邊結愛 千穂航太 安部東杜
吉澤誠章 行本龍ノ介 吉井環 山田智道
高崎木里 舟崎唯真 田口深結 木内潤
今井大地 池田杏菜 岩本理顕 山田美紅羽
芝優花 松元龍龍 前田彩名 角田瑠莉花
居鶴悠也 星野和希 鏡木悠大 浜田育
上野野 名井拓海 三田菜々子 榎あんず
齋藤爽良 佐藤公美 関澤一樹 藤代龍之介
柳大介 楠本祐生 原亜里紗 荒風紗
小林萌夏 相ノ谷翔奈 吉田柊優 野澤磨
宮下大和 宮中茉莉奈 杉原愛琳 山下結
霜中千尋 水野佑玖音 福田実梨 山下麗央
斉藤花音 岩本達也 柳田真優 原瑞生
深沢ちひろ 楡山世佳 森田誠広 山中歌織
澁澤成美 石井杏弥 山島尚生 小幡美月
佐藤高明 山澄玲奈 高埜優斗 鈴木陽緑
中谷優良 高橋菜田 内田健斗 内村莉彩
小山創太郎 田所慶音 前田かなな 仲吉藍未
竹之内采愛 神田悠翔 吉村彩 小川太朗
藤原央祥 関東竜也 安田めい 中村朋佳
河千尋 河合優仁 奥田明日香 秋山珠彩
長澤康平 齋藤晋奈 堀内舞衣 長谷川陸人
川辺優 藤井康太郎 上岡未衣 大久保花音
江上瑞妃 秦愛英 陶上嗣未 長塩実柚
榎本翠 有田光希 寺原貴太郎 高山佳穂
須藤翔翔 北島生理 菅野大雅 赤池宝良
ナッシュ・ストーン・海愛 坂本泰雅 菅家涼楓
上田理歩夢太 ホノノ 遠藤愛羽 桑田菜由子
古橋怜奈 弓削宏太郎 遠藤凛久 渡邊小春
勝澤優輝 西田朱里 木下こころ 池田彩奈
青木悠翔 伊藤海那人 本橋こころ 宮崎玲央
海老澤楓生 鈴木琴璃 前田空良 湯原津汰
寺坂太一 坂井彬彰 宮下烈 山本美菜
金田叶望 池田光一 末村あかり 金井恒将
石井佑京 西浜さえ香 佐藤蓮子 小澤柊汰
石倉菜純 秋澤穂 小林凛々子 金森華
青沼菜々美 伊藤瑞香 小野野帆 郷野歩
山本美乃 清水凛 河井心音 大石莉久
山口風里 佐藤樹 福田夢花 大矢胡桃
池田夢 藤川蘭樹 阿部凛花 佐伯葉菜
根岸央雅 浅野矢稀 大越匠 坂木絢南
清水宮太 高橋愛 寺林樹々 山内大輔
前田柑菜 為永光介 池田響 井坂優華
山本華伊 大谷京 弓削優月 関匠真
金田一準 関根勇太 葛谷颯天 蜂谷大芽
鈴木元太郎 坂下開可 岩田泰人 関亮太郎
小市真央 古澤幸賢 山下真央 若林大和
池田友人 桑原優奈 若林陽 梶日向
池崎優日 稲内颯 須田八尋 箕雄樹
大沢奈穂 稲田風 竹野渥輝 田代舜華
石黒惟那 山本丈 牧野渥晴 菅原芽依
関日菜子 村井一晴 五十川慧 山家ゆず
細貝梨名 板橋咲 上谷れい 石田忠也
古賀稔子 阿部凛 花井孝企 石渡伊吹
品沢美里 山中勇樹 海老名花恋 林龍汗
武内征太郎 斎藤蓮華 依田雛花 中村萌々果
鈴木雄太 竹澤友祐 米山祝子 田中凛来
野崎冬冬 岩本一星 菊池真奈 熊谷美矢
澤田吉弘 為貝優人 戸上虎太郎 橋本仁那
佐々木杏樹 柿崎瑠 河岸克次 岩本澄々
猪瀬尚希 小村尚生 山口眞流 影近龍
茂山翔太 野村幼生 石塚宜真 林克
小野友樹 大平虎太朗 外山翔一朗 小暮凛花
佐々木棟侍 多奈村咲人 岡本英嗣 天田皓
川原怜穂 大原詩夕 高橋美結 永井善大
佐々木温康 河野權 立石結郁 間宮素佳
寺門美幸 中山奏咲 大木千尋 吉村美咲
山内悠加 樋口誠士 佐藤雪菜 澤登香穂
善岡理央奈 柴田奈々 大内恵里子 山崎由奈
白田茉央 松岡凛 西漕太 佐藤暉流
相澤愛咲灰 灰原一葉 安達玲衣 鈴木倅斗
田口夢夢 小山竜平 宇野三愛 久保田広輝
酒原真白 大石将馬 堀部美玖 古見美柚子
宮本和奏 大矢汐彩 藤田和佳 杉本瑞季
毛郁嘉 宮野泰一 細井晴海 小浦瑞奈
小林涼太 新川拓也 塩崎陸人 樋口雄二
岡野光輝 小島百叶 山本夕雅 川上藤大
盛留あおい 今野綾咲 山下祐輝 今井煌貴
石川柊 富沢冬翔 永井翼 白井若菜
石川柊 富田健登 本村つくし 岩崎妃奈乃
廣畑葉菜 山下珠奈 山内花奈 河野駿介
山本愛菜 小山晏規乃 森知優 河鍋満衣
赤木祐介 伊能友紀 五十嵐心美 中村真由香
安達里都美 吉田直生 佐野玄武 船守凜
大島元 安富智日和 鳥居里桜 橋本和佳奈
岩藤咲 伊藤綾 勝那仁也 木村伊吹
伊藤智博 上杉真穂 加藤那埜 渡辺麻理香
岩村陽 齋藤瑞姫 山崎麻ひら 相木花捺
木本怜那 早川凜 鈴木ちひろ 須藤庵
加藤大雅 工藤風花 松浦歩夢 太田瑛恋
澤朔 瀬崎晴陽 石田麗花 森真穂
和田明空 高西胡春 酒井凛太 宮内彩乃
原田雅子 高西楓子 宮野樹果 中島彩乃
山崎衣那 大槻りさ 山下和真
山口偉史 生田嶋陽士 星野美智子
牧野賢人 津田浩望 寺崎百香
根岸俊輔 室伏美玖 甲賀響
中野白雪 福井創太 堀見誠
原田壯竜 福井恒喜 中村晴
庄司有吾 山下すみれ 飯島信吾
菊地京都 山下隆彦 福岡航太郎
佐地景都 板橋由里香 小川紗弥
伊藤賢也 御厨広太郎 加藤佑多
田仲潤 新開航大 生井陽花
谷藤歩 吉岡海翔 青山雅菜

# 春の大祭 (つつじ祭り) 5月3日～5月5日

当日祭〔尚武祭〕(5月5日)



参列員全員で国歌斉唱



神楽「浦安舞」奉奏



宮司以下祭員参列員退下



清涼殿で直会を



子供の祭「朝日子の舞」(3日)



菩提樹下で野点

## 子供の祭り 稚児行列 (3日)



稚児行列にはスカウトや鼓笛隊、陣羽織など多くの供奉が

大宮 第75号  
 平成18年春の大祭号  
 平成18年5月1日発行  
**大宮八幡宮社務所**  
 東京都杉並区大宮2-3-1  
 電話 (3311)0105 〒168-8570



奉納の杉並太鼓 (4日) と雅太鼓の演奏 (5日)

